

神奈川大学 vs 産業能率大学

4月13日(日)
11:30K.O.
保土ヶ谷

開幕戦で大量得点の神大と、逆に大量失点を喫した産能大との対戦。新顔の産能大が、初戦を経験したことで硬さが取れて萎縮せず戦えるかどうかが鍵だ。

2部リーグで2シーズン目を迎えた神大。初戦は平国大を5-3で下し、いきなり得点力を見せつけた。スタメンのほとんどが昨季の中心選手でもあり、前半から試合を優位に運んで29分までに3得点。1点を返されて迎えた後半も、先に2点を奪った。しかし、やや攻め疲れの感があつた後半は終盤で相手に主導権を渡し、終盤で2失点を喫した。長年スタッフとして携わり、今季は総監督という立場になった松永道敬氏は、「失点を恐れず得点を取りに行くという形を目指していたので点が取れたことは評価したいが、失点を抑えたい。だからと言って怖がらず前線でボールを奪いにいきたい」と話した。昨季は前半戦を3勝6敗の9位と、想定外の出遅れが後半戦に響いた。今季は連勝スタートを狙いたい。

一方の産能大は、初の関東リーグでの初戦を1-4の黒星で終えた。初戦の緊張感に加え、立ち上がりから日体大にボールを持たれ押し込まれたことから、特に前半は受け身の戦い方に終始してしまった。それでも無失点に抑えていただけに、後半に入りCKから2点を許した

のが痛かった。「簡単にボールを失い過ぎた。失点するのは覚悟の上だが、まだ構えているし守備でも(自分たちから)行き切れていない。もっとやれると思う」(加藤望監督)。2失点の後、1点を返した直後に大きなチャンスを逃した。流れをつかむチャンスもなかったわけではない。「もっと前から仕掛けて自分たちのサッカーを出したい」(DF 楠元秀真主将・4年)。まずは自分たちの形を試合で出せるかどうかだ。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

神大		産能大	
3. 高木	11. 星	7. 小池	11. 青木 25. 渡辺
29. 南	14. 芦野	3. 藤原	
6. 前田		10. 城本	4. 楠元 31. 安田
12. 黒沢		20. 斎藤	
16. 武田	10. 伊東	12. 齋藤	6. 遠藤
5. 杉山	22. 伏木	14. 市瀬	
7. 長野			

関東学院大学 vs 東京農業大学

4月13日(日)
13:50K.O.
保土ヶ谷

昨季に続き白星スタートを切った関学大と、黒星スタートとなった東農大との対戦。昨季は第3節で関学大の開幕連勝を東農大が止めたが、今季の初対決の行方は。

近年、開幕ダッシュに成功している関学大。今季も、拓大に2-0と快勝して開幕戦を制した。序盤に大きなピンチを迎えるも、前がかりになってきた相手の中盤のスペースをうまく使って反撃。16分に先制点、後半も76分に追加点を奪った。ほとんど昨季を経験している中心選手の中でも、結果的に1点ずつアシストを決めたMF 土館賢人・MF 太田一輝(いずれも4年)が軸となり、高い位置からの守備で奪ったボールを左右に展開、ゴールまでつなげる理想の形を何度も見せた。石村大監督も「悪い展開であっても自分たちでボールを持てるようになった」と、経験豊富な現在の4年生が中心の今季のチームに手応えを感じたようだ。しかし、2戦目は昨季完敗を喫した東農大が相手。楽観視せず臨みたい。

その東農大は初戦、数的有利を生かせず法大に0-1で敗れた。前半から法大に押し込まれる展開となったものの、GK 矢口隆行(4年)の好守もあって得点を許さず。後半に入って54分に相手DFが警告2枚で退場し、交代出場したFW 相川優介(4年)を中心に攻め込んだ

が、得点に至らず86分にCKからのこぼれ球を決められた。前半はシュート0本に終わっているように、「シュートが少なかった。相手のゴール前まで行く回数を増やしたい」(廣本達也コーチ)。持ち前の運動量を武器に、法大のパス回しは遮断したが、途中出場の選手をつかまえ切れなかった。トップに入る選手がボールを引き出し、少ないチャンスをいかに得点につなげるかが鍵だ。<昨年の対戦>前期/関学大0-3東農大、後期/関学大1-0東農大

関学大		東農大	
4. 久保	8. 普光院	11. 井上	2. 中西
2. 吉田	9. 富樫	15. 小田原	
7. 太田		7. 和氣	
1. 井田		13. 岡庭	1. 矢口
10. 土館		29. 村山	25. 金
3. 原島	33. 萱沼		5. 櫻岡
11. 中村		8. 佐々木	
32. 木村		3. 加藤	

予想布陣は直近の試合を参考に作成しています

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.1

編集：五味亜矢子 印刷：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



日体大と神大が大量得点発進!

開会式翌日の4月6日、JR東日本カップ2014第88回関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグの開幕戦6試合が一斉に行われた。引き分けがなく、すべて勝負がついた6試合の中でも、日体大と神大が大量得点を奪って開幕戦を飾った。日体大は関東リーグデビュー戦となった産能大を4-1で退け、神大は平国大に3点を許したものの5得点を奪って勝利。他の4試合は、関学大が拓大に、東学大が青学大にそれぞれ2-0、法大が東農大に、日大は東洋大にそれぞれ1-0という無失点勝利で好スタートを切った。1部リーグからの降格組である日体大と東洋大、都県リーグからの昇格組である日大と産能大は、それぞれ明暗が分かれる開幕戦となった。

得点ランキング	アシストランキング
2: 芦野 翔斗(神大) 山田 悠策(東学大) 星子 直哉(平国大) 1: 全13名	1: 全11名

長丁場となるリーグ戦ではあるが、開幕3試合くらいまでに、いかに良い感覚をつかむかが非常に重要。序盤の結果がリーグ戦の流れを決めかねないだけに、敗れたチームは連敗は避けたい。6試合とも初戦の勝利チームと敗戦チームの対戦となる第2節に注目!

JR 東日本カップ2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第1節終了時)

順位	2部	日体大	神大	関学大	東学大	法大	日大	東洋大	東農大	平国大	青学大	拓大	産能大	勝数	負数	点数	得点	失点	得失	勝点
1	日体大		5/11	5/25	5/6	4/26	4/16	6/15	5/3	4/13	5/17	4/20	4○1	1	0	0	4	1	3	3
2	神大	日体大G		6/15	5/3	5/25	4/27	5/18	5/6	5○3	4/20	4/16	4/13	1	0	0	5	3	2	3
3	関学大	BMWス	日体大G		4/27	5/17	5/5	5/2	4/13	4/16	5/10	2○0	4/19	1	0	0	2	0	2	3
3	東学大	ゼットエー	保土ヶ谷	東洋大G		6/14	5/25	4/12	4/16	4/19	2○0	5/10	5/17	1	0	0	2	0	2	3
5	法大	日体大G	東洋大G	青学大G	法大G		5/11	4/20	1○0	5/6	4/16	4/13	5/3	1	0	0	1	0	1	3
5	日大	海老名陸上	三ツ沢陸上	ゼットエー	産能大G	法大G		1○0	4/20	5/18	4/12	5/2	6/14	1	0	0	1	0	1	3
7	東洋大	日体大G	たつのこ	横須賀	味スタ西	上柚木	0●1		5/11	4/27	5/25	5/6	4/16	0	1	0	0	1	-1	0
7	東農大	保土ヶ谷	駒沢陸上	保土ヶ谷	江戸陸	0●1	上柚木	日体大G		5/24	6/14	5/18	4/26	0	1	0	0	1	-1	0
9	平国大	日体大G	3●5	横須賀	産能大G	千葉東総	上柚木	東洋大G	千葉東総		5/3	6/14	5/11	0	1	0	3	5	-2	0
10	青学大	青学大G	青学大G	保土ヶ谷	0●2	横須賀	夢の島	東洋大G	法大G	味スタ西		4/26	5/6	0	1	0	0	2	-2	0
10	拓大	青学大G	三ツ沢陸上	0●2	たつのこ	日体大G	横須賀	千葉東総	上柚木	産能大G	日体大G		5/25	0	1	0	0	2	-2	0
12	産能大	1●4	保土ヶ谷	産能大G	ゼットエー	BMWス	産能大G	海老名陸上	古河	法大G	ゼットエー	産能大G		0	1	0	1	4	-3	0

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント

ただ、自分に勝ちたい。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会

RECRUIT

青山学院大学 vs 日本大学

4月12日(土)
11:30K.O.
夢の島

初戦を無得点で敗れた青学大と、無失点で勝利した日大との対戦。2年ぶりの対戦となるが、2年前は青学大が1分1敗と分が悪い。得点力を発揮できるか。

その青学大は初戦、東学大に0-2で敗戦を喫した。前半こそ、やや優勢の感はあったがゴールに結びつけることはできず、後半は東学大に選手交代をきっかけに主導権を握られる時間帯が長くなり、56分と81分に失点。ピッチ状態の問題もあったが、東学大の前線からの厳しいプレッシャーに青学大らしいパス回しをさせてもらえなかったことが無得点の最大の要因だ。MF 関谷祐(4年)らが個人技で突破を図るも、決定的な形には持ち込めなかった。「開幕戦という緊張感の中、チャンスをきちんとモノにできる強い気持ちの部分足りなかった」(宮崎純一監督)。後半は、記録上のシュート数は0本に抑えられた。「チャンスをつくったら最後まで押し込むプレーを丁寧にやっていきたい」(宮崎監督)。

一方の日大は、関東リーグ復帰初戦を白星で飾った。しかも、降格を余儀なくされた一昨年のシーズンには大敗も喫していた東洋大に、倍以上のシュート数を記録し1-0と勝利したことは、関東リーグでの再スタートにあたり大きな自信になったのではないだろうか。試合は

雨と強風の中で、「前半は我慢して無失点に抑えれば、後半は必ずチャンスが出てくる」という川津博一監督の指示通り、前半は慎重に、そして後半に入ると長いボールを効果的に使って攻撃を仕掛けた。相手よりもチャンスを作りながらなかなか得点に至らなかったが、85分、交代出場したFW 成瀬琢斗(3年)の俊足を生かして1点をもぎ取った。ポゼッション能力もあるチームだが、仕掛けどころがはまれれば勝点を伸ばせるはずだ。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

青学大		日大	
6. 服部	11. 恵	7. 廣田	1. 谷
3. 御牧	8. 後藤	9. 宇都宮	22. 浅野
1. 高橋	27. 角宮	13. 中村	20. 釣巻
10. 関谷	14. 伊藤	15. 山口	
13. 澤井	7. 荒木	19. 富山	2. 長谷川
2. 堤		33. 山本	6. 中村

法政大学 vs 拓殖大学

4月13日(日)
11:30K.O.
日体大G

昨季、1勝1敗同士の“オレンジ対決”。下位で争ってしまった昨季だが、今季はお互いに上位進出するか。

開幕戦を1-0で制した法大。既に2部リーグで4年目、長山一也新監督を迎えて臨んだ勝負のシーズンは、DF 宗近慧主将(4年)を2度の警告で欠く苦しい初陣となったが、86分の得点で劇的な勝利を収めた。東農大に対し、前半はシュート0本に抑えて優勢に進めるものの、GKの好守もあって得点につなげることができず。54分に退場者を出してやや守勢に回ってしまったが、選手交代で攻撃のチャンスを伺い、最後はリーグ戦デビューとなったDF 伊藤航希(2年)がCKのこぼれ球を決めて勝利につなげた。「数的不利の中でしっかり戦えてよかった。途中出場の選手がうまくゲームを作ってくれた」(長山監督)。しかし、ボール回しからのチャンスづくりは、グラウンド状況もあって満足なものではなかっただけに、今節への課題だ。

対する拓大の開幕戦は、関学大と戦い0-2の敗戦に終わった。シュート数は少なかったものの、内容的に見て拓大らしい攻撃力の片鱗は見せていただけに、速攻からの2失点は痛かった。玉井朗監督が「相手に負けたというより、自分たちが力を出せないままに終わったゲー

ム」と話したように、ボールを保持して攻め込みながら、ミスから奪われ逆襲を受けるシーンが多く、結果的に関学大の得意な形を作らせてしまった。ここ数年の低迷を打破できるか、大事なシーズンでもある今季。今節はお互い攻撃力のある法大が相手だけに、攻守のバランスに気を配りつつ、攻め切れるかどうか鍵だ。

<出場停止>宗近慧(法大)

<昨年の対戦>前期/法大1-2拓大、後期/法大2-1拓大

法大		拓大	
2. 永戸	14. 白石	2. 谷川	17. 郡司
22. 田代	25. 西室	5. 高橋	8. 菅能
12. 袴田	10. 高橋	18. 沼倉	12. 夏井
	4. 清水	27. 森川	31. 宗像
27. 山田	26. 伊藤	13. 三浦	16. 大森
6. 星	8. 三田	34. 緋田	

東洋大学 vs 東京学芸大学

4月12日(土)
11:30K.O.
味スタ西

1部リーグから、昨季降格の東洋大と一昨年降格の東学大。対戦は、最終戦で引き分けてともに昇格を逃した2011年以来。1部昇格を目指すチーム同士の対戦だ。

昨季、初の1部リーグを経験してきた東洋大。2年ぶりの2部リーグでの開幕戦は、雨の中、0-1での敗戦となった。雨とはいえ、環境を熟知したホームグラウンドでの初戦であっただけに、DF ラインから落ち着いて攻撃を組み立てチャンスを伺っていたが、長いボールを多用してきた日大に押し込まれるシーンも多く前半は無得点。後半も攻め切れないうまま時間が過ぎると、85分に先制点を許してしまった。「ゲーム全体の出来は悪くなかった。ただ先に点を取れないと、こういう展開になることも予想していただに残念。最低限、勝点1を取らなければいけない」(古川毅監督)。前線ではシュートパスをつなぐなど持ち前の技術力を見せたが、攻守のバランスと仕掛けどころの見極めが課題か。

対する東学大は、青学大を2-0で破って開幕戦を制した。昨季は関東初昇格の東国大に逆転負けを喫しただけに、無失点勝利は絶好のスタートと言える。内容的にも、お互いにポゼッション能力を持ち拮抗した試合を勝ち切ったことで、数年来の課題となっている勝負強さを

発揮した好ゲームであった。「前半、自分たちのやりたいサッカーができず苦しい中でも失点をせず、後半につなげられたのがよかった」(出口拓馬コーチ)。2部では、攻め込みながら逆襲を受けて勝てないという“決定力不足”の試合が目立っている東学大。苦しみながら勝ち切ったが、勝因の一つには相手を上回る厳しいプレスと球際での粘り強さがあった。1部復帰への気持ちが見える初戦だっただけに、今節も期待が持てる。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東洋大		東学大	
30. 水落	28. 仙頭	5. 廣木	1. 須賀
4. 郡司	10. 平石	18. 久保	4. 脇本
1. 浅沼	15. 小山	14. 平田	11. 五十嵐
	14. 小山	9. 山田	8. 菅
5. 田口	11. 佐々木	7. 佐藤	23. 永井
16. 石坂	7. 齊藤	16. 富澤	

日本体育大学 vs 平成国際大学

4月13日(日)
13:50K.O.
日体大G

初戦で4点を奪った日体大と3点を奪った平国大との対戦。リーグ戦では初の顔合わせとなる。

3年ぶりの2部リーグでの初戦を4-1で快勝した日体大。相手は関東リーグ初見参の産能大で、開幕戦の緊張感の中での初対戦は得てして戦いにくいものだが、序盤からボールをキープすると積極的に仕掛けて主導権を握った。それでも、「初めて出る選手も半分くらいいて緊張もあった。シュートを打ち切れなかった」と倉又寿雄監督が話したように、前半は圧倒的に支配しながら相手の厚い守備を崩せず。後半は4点を奪ったものの、そのうち3点がセットプレーによるものだった。セットプレーの強さは大きな武器だが、「結果はついてきたが、内容は納得がいかない」(DF 広瀬健太主将・4年)というように、DFからビルドアップし、しっかりと組み立てて得点につなげる力もつけてきている日体大だけに、勝って兜の緒を締めて今節に臨む。

対する平国大の2部リーグ3年目の開幕戦は、神大に5点を許しながら3点を奪い返すという、やや大味なゲームとなった。立ち上がりから相手の出足の早さに押され、前半は神大にボールを支配されて29分までに早くも3失点を喫した。しかし、これで諦めないのが平国大

の良さ。「力のないチームだったら早い失点でバタバタしてしまうと思うが、まず1点を返し、最後まで点を取りに行けたのは成長した部分だと思う」と西川誠太監督が話したように、少しずつでも自分たちの時間帯を作り出し、最終的にはシュート6本で3点を奪った。昨季に続き、FW 星子直哉(3年)がチームの得点源となり、MF 千葉真史(4年)が起点となった。“らしさ”は見せた開幕戦だったが、もう少し守備面で粘りたい。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

日体大		平国大	
2. 高野	17. 高井	7. 柏俣	11. 千葉
3. 広瀬	10. 阿部	26. 小松崎	16. 玉田
1. 伊藤	18. 川戸	9. 星子	3. 深井
	4. 桂	25. 猪瀬	5. 鎌田
29. ンドカ	7. 長谷川	15. 堀越	2. 増田
	11. 小山		
26. 福田			